

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 作業療法士学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|--|---|-----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 発達障害治療学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 昼間部2年 | 学 期 | 後期 | 教 室 名 | 802 |
| 担 当 教 員 | 鎌田 荘平 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | 作業療法士として重症心身障害児・者施設で9年間、老人保健施設で2年間勤務。 重症心身障害児・者施設で0歳～40歳代の脳性麻痺を主とした肢体不自由児、発達障害児、老人保健施設で高齢者 に対し関わる。 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 本授業では発達作業療法領域の対象となる方々の、姿勢、運動面からを観察でき、機能、活動の考察を挙げられることを目標に授業を展開していきます。①基礎となる、正常発達、姿勢反射、筋緊張を理解できる。②発達領域の対象児・者の特性と問題点を列挙できる。③観察から評価が始まり、仮説検証しながら作業療法が展開されることを知り、評価から治療立案までを理解することができるよう学習していきます。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 定期試験:50% 小テスト:50% | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 標準作業療法 発達過程作業療法 標準作業療法 作業療法評価学. 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 授業内容の予習、復習 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 発達領域は国家試験に約20点出題されます。予習、復習をしっかり行い、覚えるべき知識は覚え、分からないことがあれば、質問をして成長していきましょう！何より、発達領域の作業療法の楽しさ、深さを感じてほしいです！いっぱい話し合いながら、一緒に良い授業にいきましょう!!!いっぱい学習し、話し合う、そのような経験が将来、対象と出会ったときに生きてくると考えています！ | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 授業の概要が理解できる | | 人間発達学全般 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 授業オリエンテーション 作業療法の実際 | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 発達障がい領域の作業療法、発達過程作業療法の基礎が説明できる。 | | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 発達過程作業療法の理念と目的/歴史と変遷、人間の発達過程と作業療法に必要な知識 | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 1歳までの発達を説明できる。 | | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 人間の発達過程と作業療法に必要な知識:発達課題 | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 反射・反応が説明できる。 | 標準作業療法評価学、人間発達学 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1歳までの姿勢運動の発達/姿勢反射・反応 | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 反射・反応が説明できる。 | 標準作業療法評価学、人間発達学 | 小テスト | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1歳までの発達:姿勢運動の発達/姿勢反射・反応② | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | | |
|-------|-------------|---------------------------|-----------|------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 筋緊張について説明できる。 | 標準作業療法評価学 | 小テスト |
| | 各コマにおける授業予定 | 姿勢反応(立ち直り・平衡反応)/筋緊張 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 筋緊張の評価の意味が言える。筋緊張の評価ができる。 | 標準作業療法評価学 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋緊張の評価 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 定型発達児の発達過程を言える | | 小テスト |
| | 各コマにおける授業予定 | こどもの作業、OTの対象疾患(P28～38) | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 初期評価～治療プログラム立案までを説明できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 発達過程作業療法の実践の場:P56～69 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 脳性まひ児への姿勢・運動の援助が列挙できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 脳性まひP135～161 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 脳性まひ児への姿勢・運動の援助が列挙できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 脳性まひP135～161 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 神経発達障害群の理解ができ、対処方法が列挙できる | | 小テスト |
| | 各コマにおける授業予定 | 神経発達症群/神経発達障害群:P179～211 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 神経発達障害群の理解ができ、対処方法が列挙できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 神経発達症群/神経発達障害群:P179～211 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | デシャンヌ型筋ジストロフィー症について説明できる | | 小テスト |
| | 各コマにおける授業予定 | 筋ジストロフィー:P257～ | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 二分脊椎について説明できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 二分脊椎症:P298～ | | |